

最近の酪農情勢（メモ）

平成 29 年 8 月 23 日
日本酪農政治連盟

I 外交交渉

1. 日EU・EPA交渉

- 2013 年 3 月：日EU首脳電話会談で、日EU・EPA交渉開始を決定。
- 2016 年 5 月：G20伊勢志摩サミットに際し、関係首脳（イタリア、フランス、ベルギー、ドイツ、英国）から、2016 年のできる限り早期の大筋合意に達するとの強いコミットメントを再確認する共同ステートメントを发出。
- 2016 年 12 月：岸田大臣とマルムストローム欧州委員（貿易担当）との電話会談において、可能な限り早期の大筋合意を目指し、来月（2017 年 1 月）速やかに交渉を開始することで一致。
- 2017 年 1 月：（自由民主党）日EU経済連携対策議員連盟設立総会を開催。設立の趣旨は「情報開示を求めるとともに、我が国の関心事項が確実に実現できるよう働きかけを行うものとする。」こととし、岡田広氏（参議院議員）を会長に選任した。
- 2017 年 6 月：（自由民主党）日EU等経済協定対策本部の設置を決定した。本部長に西川公也氏、幹事長に森山裕氏、事務総長に吉川貴盛氏を選任した。尚、政府は 7 月上旬の大枠合意を目指すとの報道もなされている。
- 2017 年 7 月 6 日：安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大枠合意したと発表した。酪農関連ではソフト系チーズなどについて、製品ベースで 3.1 万トン（16 年目）の輸入枠を設定、枠内関税は 16 年目に撤廃。ハード系では関税（29.8%）を 16 年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で 1.5 万トン（6 年目）の低関税輸入枠を設定する、などの内容となった。

2. TPP交渉関連

- 2017 年 5 月：離脱した米国を除く TPP 署名 11 か国は、21 日、ベトナム・ハノイで閣僚会合を開催し、米国復帰の方策を含めて TPP の早期発効を迫るとの声明を採択した。

II 平成 29 年度畜産酪農対策

平成 29 年度畜産物価格・関連対策については、①生クリーム等の液状乳製品向け生乳を補給金対象に追加のうえ補給金単価は一本化とし、同単価については生産者が意欲を持てる交付金単価とすること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が 10.56 円、対象数量は 350 万トン、所要額は 370 億円（前年は 306 億円）となった。尚、生産コストの算定に当たっては、平成 25 年から 27 年までの「牛乳生産費調統計（農林水産省統計部）の北海道の各統計データが採用され、廃用牛と子牛価格については、直近 7 年平均のデータが採用された。

【指定食肉の安定価格】 牛肉 [安定上位価格 1215(1155)円/kg、
安定基準価格 900(890)円/kg]

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	136,000 円/頭（133,000 円）	93,000 円/頭（90,000 円）
交雑種	210,000 円/頭（205,000 円）	152,000 円/頭（147,000 円）

Ⅲ 平成 29 年度政府農林予算 2 兆 6350 億円(対前年比 114%)で決定 (概算要求) (他に補正で 5739 億円)

平成 28 年 8 月 2 日の常任中央合同委員会を経て要請内容を決定、特に本年度は①後継牛確保対策、②自給飼料対策、③経営安定対策、④その他対策 (畜産クラスター関連事業における十分な予算の確保、酪農ヘルパー事業への支援継続)、⑤その他：指定生乳生産者団体制度の存続及び機能強化、を重点項目とし、要請運動を継続して展開した。これらの要請活動の結果、以下の事業が政府案として決定した。

主な酪農関連対策

①農業競争力強化プログラム

畜産・酪農の生産基盤強化

- ・ 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業 {685 億円 (610)} (畜産クラスター関連事業)
- ・ 畜産・酪農生産力強化対策事業 {16 億円 (30)}
- ・ 畜産経営体質強化支援資金融通事業 {17 億円 (20)}

自給飼料の生産拡大

- ・ 飼料生産基盤利活用促進緊急対策事業 {9 億円 (7)}
- ・ 飼料増産総合対策事業 {10 億円 (10)}
- ・ 飼料生産型酪農経営支援事業 {70 億円 (68)}

酪農家の働き方改革

- ・ 酪農経営体生産性向上緊急対策事業 {60 億円} **新規**

②ALIC対策

- ・ 酪農経営支援総合対策事業 {41 億円 (40)}

③畜産・酪農経営安定対策

- ・ 加工原料乳生産者補給金 {370 億円 (306)}
- ・ 肉用子牛生産者補給金 {199 億円 (203)}
- ・ 肉用牛繁殖経営支援事業 {176 億円 (169)}
- ・ 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 {869 億円 (869)}

④その他

- ・ 鳥獣害防止総合対策交付金 {97 億円 (97)}

IV ホクレン、平成 29 年度プール乳価を 60 銭値上げで決着

28 年 12 月 12 日、ホクレンは平成 29 年度乳価について、乳業メーカーとの平成 29 年度乳価交渉の結果、バター・脱脂粉乳など向けを前年度より 1kg 当たり 1 円、チーズ向けを同 1～2 円引きあげると発表した。その他の用途は据え置く。生産者に支払う平均乳代（プール乳価）は同 60 銭上がるものと見込むと発表した。

V 酪農家戸数 16,400 戸（29.2/1 現在 畜産統計。農水省 7/4 発表）（ ）内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全 国	16,400 (17,000) 3.5%減	1,323 (1,345) 1.6%減	80.7 (79.1) 2.0%増
北海道	6,310 (6,490) 2.8%減	779 (786) 0.9%減	123.5 (121.1) 2.0%増
都府県	10,100 (10,500) 3.9%減	544 (559) 2.7%減	53.8 (53.3) 0.9%増

VI 牛白血病(BLV)に対する家畜共済の取扱いの見直しについて

【取扱いの変更点】

	現行	見直し後
農場で牛白血病と診断されて廃用となった場合	○	○ (一部免責あり)
と畜場において牛白血病と診断されて全廃棄となった場合	×	○ (一部免責あり)

○共済金対象 ×共済金支払対象外

【免責基準】

- (1) 以下を実施していない場合には、全国一律に共済金の 4 割を免責する。
 - ①同一の注射針を複数の牛に用いないこと
 - ②直腸検査及び人工授精時に使用する直検手袋を 1 頭ごとに必ず交換すること
 - ③妊娠鑑定時に用いるエコープローブをカバーで被覆して 1 頭ごとにそのカバーを交換すること
 - ④使用後の除角器具、去勢器具、削蹄器具、耳標・鼻環の装着器等は、一頭ごとに別々の容器で洗浄、消毒して使用すること
- (2) と畜場から牛白血病による全廃棄の連絡を受けたのち、3 日以内に組合等に損害発生通知がなかった場合は、全国一律に共済金の 1 割を免責する。

VII 配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3 t/年・頭→1 万円上がれば 33,000 円の負担増)

- 20 年 10～12 月期、配合飼料価格最高値 67,600 円（生産者負担 59,950 円）を記録。
- シカゴ穀物 20 年 8 月より下げに転じたが、農家への値下げ反映は 21 年 1 月より。
- 24 年 10 月より再び急騰し、26 年 10～12 月一時値下げも次期反発し、高止まり状態。
- 27 年 1～3 月期 2,550 円上げ。円安に加え主原料の値上がりが必要。
- 27 年 4～6 月期 750 円下げ。7～9 月期 1,800 円下げ。10～12 月期据え置き。
- 28 年 1～3 月期 700 円下げ。4～6 月期 3,700 円下げ。7～9 月期 800 円上げ。
- 28 年 10～12 月期 1,650 円下げ。
- 29 年 1～3 月期 1,950 円上げ。4～6 月期 700 円上げ。7～9 月期 1,100 円下げ。

VIII 最近の酪政連活動 ‹‹主な活動、下記は一例です。››

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
8/26(金)自民党 農林水産戦略調査会、農林部会、農政推進協議会 合同会議:平成29年度概算要求 団体要請	8/2(火)1300合同委員会:平成29年度酪農政策・予算確保に関する要請を決定
10/19(水)0800自民党畜酪小委員会 指定団体関係ヒアリング(生産者から)	9/8(木)1200三役会議
10/19(水)1700自民党酪政会総会〔参議院議員会館〕	9/26(月)酪政連事務所を全理連ビル3階に移転
10/26(水)0800自民党畜酪小委員会 指定団体関係ヒアリング(関係団体から)	10/12(水)1600三役会議
10/31(月)1400自民党畜産振興議員連盟総会 平成29年度酪農政策・予算確保に関する要請	10/19(水)1100三役会議・1300常任中央合同委員会〔全理連ビル〕
11/2(水)自民党 農林食料戦略調査会、食料産業調査会、農林部会、農林水産関係団体委員化、農政推進協議会 合同会議:平成29年度税制改正に関する 団体要請	11/14-15三役により、農林幹部に対する要請活動、(指定生乳生産者団体制度の存続に関する要請を実施)
11/25(金)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会、農林水産業骨太方針策定PT、農業基本政策検討PT、畜産・酪農対策小委員会 合同会議:農業競争力強化プログラム取り纏め	12/1(木)合同委員会:指定団体制度について(報告)平成29年度畜産物価格、酪農対策に関する要請を決定
12/12(月)1630 自民党畜酪小委員会にて、平成29年度畜産物価格、酪農対策に関する要請を実施	1/25(水)緊急三役会議
12/16(金)畜酪、報告〔901〕	2/13(月)緊急三役会議
12/19(月)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会、合同会議:平成29年度農林水産関係予算について、及び日 EU・EPA交渉の状況について	2/14(火)1430事務局長会議
1/16(月)日 EU経済連携対策議員連盟第1回総会	2/21(火)1300合同委員会:加工原料乳生産者補給金制度の改革の進捗、日EU、EPA交渉、米国とのFTA交渉の状況について
1/23(月)日 EU経済連携対策議員連盟第2回総会	3/6(月)1100三役会議〔自由民主会館〕
2/17(金)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会、畜産・酪農対策小委員会 合同会議:加工原料乳生産者補給金制度改革	3/6(月)1300常任中央合同委員会〔自由民主会館〕
3/10(金)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会合同会議:TPPの最近の状況について	3/6(月)1400通常総会〔自由民主会館〕
5/17(水)自民党 TPP総合対策本部:ハノイにおけるTPP関係会合について	4/12(水)0800民進党ヒアリング(加工原料乳生産者補給金制度の改革)
5/17(水)衆議院 農林水産委員会にて、「改正畜安法」の審議を開始。	4/14(土)1000三役会議
6/9(金)改正畜産経営安定法が国会で可決承認される。	5/17(水)1300合同委員会:日EU、EPA交渉、米国とのFTA交渉の状況、加工原料乳生産者補給金制度の改革の進捗、について
6/9(金)自民党、日EU等経済協定対策本部の設置を決め、第1回会合を開く。尚、政府は7月上旬の大枠合意委を目指しているとの報道がなされている。	6/15(木)酪政連は、自民党の「日EU経済協定対策本部第4グループ(農業関連)の会合にて、これに関する要請を実施。
7/6(木)安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大筋合意に至ったと発表した。酪農関連ではソフト系チーズについて製品ベースで3.1万トン(16年目)の輸入枠を設定、枠内関税は16年目に撤廃。ハード系では関税(29.8%)を16年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で1.5万トン(6年目)の低関税輸入枠を設定する、などの内容となった。	7/5(水)～8(土)畜産ネットワークの一員として、佐藤副委員長をブリュッセルに派遣
8/3(木)安倍総理は内閣改造と自民党役員人事を行った。(第3次安倍第3次改造内閣)農林水産大臣には斉藤健氏が就任した。自民党の国会対策委員長には森山氏が就任した。また、その後の人事で農林部会長には、野村氏が就任した。	7/25(火)1100三役会議。
	7/25(火)1300常任中央合同委員会〔自由民主会館〕日EU、EPA交渉、畜安法改正に伴うスキーム、平成30年度酪農政策予算確保、規約の一分改正、及び役員選任規程(案)の制定についてを協議
	8/18(金)1400三役会議 補助事業に関する農林水産省との意見交換会

4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

■29年6月の生産量：バター4.9千トン(前年比90.0%)、脱脂粉乳9.5千トン(前年比98.4%)

■29年6月末在庫量：バター28.3千トン(前年比101.8%)≪5.5カ月≫、脱粉54.0千トン(前年比91.9%)≪4.7カ月≫

(参考：29年度6月推定出回り量、バター5.1千トン、脱粉11.6千トン)

	バター生産		脱脂粉乳	
	千トン	前年比%	千トン	前年比%
24年度	70,118	111.17%	141,431	104.83%
25年度	64,302	91.71%	128,818	91.08%
26年度	61,649	95.87%	120,921	93.87%
27年度	66,299	107.54%	130,187	107.66%
28年度	63,583	95.90%	123,500	94.86%
28.6	5,393	108.30%	9,608	100.30%
7	5,443	102.40%	10,033	99.00%
8	5,353	103.92%	9,850	99.36%
9	3,585	84.56%	7,330	85.18%
10	4,018	91.34%	7,915	93.78%
11	4,161	98.85%	8,828	96.93%
12	5,695	92.21%	13,084	94.18%
29.1	6,030	88.62%	11,154	88.43%
2	4,883	82.23%	9,425	85.96%
3	6,082	88.41%	12,308	91.80%
4	5,718	87.91%	11,637	93.25%
5	6,190	96.17%	11,555	100.60%
6	4,854	90.01%	9,452	98.38%
29.4-6	16,762	91.43%	32,644	97.23%

5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/ばら1トン)	
	千円	前年比%	千円	前年比%	ホルオス		交雑種		ホルメス		千円	前年比%
23年度	893	100.10%	171	109.60%	37.5	111.30%	117.1	92.40%	203.2	110.30%	62.9	106.10%
24年度	903	101.12%	152	88.89%	32.4	86.40%	103.4	88.30%	220.4	108.46%	62.9	100.00%
25年度	910	100.78%	205	134.87%	46.5	143.52%	143.2	138.49%	217.2	98.55%	70.6	112.24%
28.7	1,017	100.49%	312.0	94.46%	119.1	141.23%	277.1	128.29%	377.8	148.68%	68.5	95.19%
8	1,018	100.59%	305.0	88.41%	99.9	146.09%	267.1	124.81%	367.2	136.10%	68.5	95.21%
9	1,014	100.60%	340.1	110.14%	87.6	129.72%	246.9	121.09%	450.3	171.87%	68.5	95.21%
10	1,037	100.39%	313.3	102.12%	87.6	114.81%	237.3	114.64%	493.1	174.61%	67.3	93.64%
11	1,033	100.49%	308.8	92.59%	93.9	100.60%	252.9	121.59%	447.7	133.09%	67.4	93.81%
12	1,029	101.08%	279.5	90.19%	89.3	84.72%	255.9	115.27%	480.2	140.78%	67.4	93.79%
29.1	1,003	100.91%	281.8	87.00%	81.6	76.76%	251.5	115.42%	430.7	129.81%	67.5	95.16%
2	1,009	100.60%	299.8	99.07%	94.5	86.48%	258.5	116.23%	452.2	116.64%	67.6	95.29%
3	1,008	100.20%	294.2	99.02%	105.1	96.96%	267.5	116.35%	438.3	111.05%	67.6	95.56%
4	996	100.20%	290.0	90.99%	112.6	98.95%	287.0	117.00%	466.5	120.11%	67.8	100.49%
5	1,018	102.21%	285.7	90.76%	116.9	92.63%	287.0	114.66%	503.1	126.25%	67.8	100.55%
6	1,014	101.30%	291.4	88.92%	130.0	101.17%	279.3	106.28%	480.1	128.06%	68.4	101.56%

資料：農林水産省「農業物価統計」

注：1.平成8年度以降の総合乳価平均価格は牛乳乳製品課推計。

2.乳廃牛価格は、中央卸売市場の乳用メス(乳用種)枝肉C1の平均価格であり、年度平均は各月の単純平均。

3.乳子牛価格について、ホルオスは生後7～10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

4.配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

5.()内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

II 牛肉、子牛価格の動向

(1) 6月推定出回り量73.0千トン(前年比117.7%)、推定期末在庫108.4千トン(前年比88.3%)

年度月	生産量		輸入量		国内生産量の割合	推定出回り量					
						合計		うち輸入量		うち国産品	
23	354,146	98.80%	516,189	100.90%	40.69%	875,942	102.70%	522,865	105.80%	353,077	98.50%
24	359,737	101.58%	505,720	97.97%	41.57%	858,745	98.04%	499,002	95.44%	359,743	101.89%
26	351,555	99.30%	516,313	96.41%	40.51%	846,265	97.61%	492,855	95.61%	353,409	100.54%
27	332,408	94.60%	487,098	94.40%	40.56%	829,347	98.00%	500,834	101.60%	328,513	93.00%
28	324,257	97.55%	525,694	107.92%	38.15%	861,099	104.58%	538,565	108.77%	322,534	98.25%
28.7	28,250	94.02%	57,861	124.69%	32.81%	81,842	107.19%	54,587	115.58%	27,255	93.59%
8	25,631	100.86%	38,717	108.30%	39.83%	63,597	99.94%	37,804	97.88%	25,793	103.11%
9	26,387	98.98%	42,300	91.89%	38.42%	71,084	99.74%	45,111	100.58%	25,973	98.32%
10	27,186	94.21%	41,249	99.30%	39.73%	76,746	105.94%	50,042	114.33%	26,704	93.14%
11	32,619	99.88%	43,680	97.65%	42.75%	79,307	102.02%	46,894	103.78%	32,413	99.58%
12	30,336	96.20%	45,080	121.91%	40.22%	80,300	105.21%	50,045	110.72%	30,255	97.20%
29.1	24,378	100.50%	34,705	126.37%	41.26%	61,691	107.34%	36,692	111.20%	24,999	102.12%
2	24,366	95.95%	40,600	123.48%	37.51%	66,958	114.90%	43,168	131.29%	23,790	93.68%
3	25,941	100.10%	43,544	120.51%	37.33%	69,560	104.73%	43,818	106.47%	25,742	101.90%
4	28,315	100.87%	51,485	98.68%	35.48%	79,612	97.52%	51,362	96.10%	28,250	100.22%
5	25,418	100.67%	56,446	121.65%	31.05%	79,100	119.21%	53,266	130.58%	25,834	101.07%
6	26,025	100.70%	50,202	127.47%	34.14%	73,012	117.71%	47,358	130.95%	25,654	99.20%
29.4-6	79,758	100.75%	158,133	114.62%	33.53%	231,724	110.34%	151,986	116.55%	79,738	100.16%

(2) 乳子牛(ホルスタイン)価格の推移 <農水省農産物価格指数>

[単位:円/頭(前年同月比%)]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
27	41,170	45,810	50,610	59,370	75,050	88,570	84,330	68,370	67,520	76,290	93,380	105,400	71,323
	97.51%	94.26%	93.76%	103.63%	130.41%	148.81%	160.69%	167.70%	192.09%	241.35%	285.65%	272.56%	155.46%
28	106,300	109,300	108,400	113,800	126,200	128,500	119,100	99,880	87,590	87,610	93,940	89,250	105,823
	258.20%	238.59%	214.19%	191.68%	168.15%	145.08%	141.23%	146.09%	129.72%	114.84%	100.60%	84.68%	148.37%
29	81,570	94,520	105,100	112,600	116,900	130,000							106,782
	76.74%	86.48%	96.96%	98.95%	92.63%	101.17%							100.91%

■肉用子牛基金:27年度→乳用種=保証基準価格130,000円、合理化目標価格88,000円、交雑種=同199,000円、同144,000円。28年度→乳用種=保証基準価格133,000円、合理化目標価格90,000円、交雑種=同205,000円、同147,000円。29年度→乳用種=保証基準価格136,000円、合理化目標価格93,000円、交雑種=同210,000円、同152,000円。

補給金交付単価は、24第1四半期:乳用種34,350円、第2四半期:乳用種24,100円、第3四半期:乳用種18,200円、第4四半期:乳用種10,600円、

25年度、26年度、27年度共に全期間補填実績なし

28年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期:乳用種0円。

III 飼料等の動向

・配合飼料価格:平成29年7~9月はトン1,100円値下げ(全農)。主として大豆相場下落と替相場が円高となったことが原因で値下げとなった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
27	75,010	75,090	74,890	73,510	73,480	73,480	71,960	71,950	71,950	71,870	71,850	71,860
	106.88%	107.01%	106.70%	100.08%	100.01%	100.12%	96.71%	96.69%	96.69%	99.69%	99.79%	99.81%
28	70,940	70,940	70,740	67,450	67,390	67,390	68,500	68,510	68,500	67,300	67,400	67,440
	94.57%	94.47%	94.46%	91.76%	91.71%	91.71%	95.19%	95.22%	95.21%	93.64%	93.81%	93.85%
29	67,510	67,570	67,580	67,780	67,760	68,440						
	95.16%	95.25%	95.53%	100.49%	100.55%	101.56%						

■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

[単位:円/トン(補填交付金)]

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
23	3,200(3,000)	1,800(4,700)	1,300(4,700)	▲1,000(2,100)
24	▲2,600(0)	900(0)	900(350)	4,350(5,450)
25	0(4,300)	3,200(5,800)	1,300(5,050)	▲2,750(700)
26	▲500(0)	1,300(0)	800(0)	▲2,650(800)
27	2,550(800)	▲750(0)	▲1,800(0)	0(0)
28	▲700(0)	▲3,700(0)	800(0)	▲1,650(0)
29	1,950(950)	700(未定)	▲1,100(未定)	

■米国産穀物の今年度需給見通し(米国農務省8月10日発表)

<期末在庫>大豆は、生産が増加となり、需要も増加のため、在庫予想も増加となった。小麦は、生産、需要共に微減したため、在庫予想は横ばいとなった。とうもろこしは、生産が微減、需要も微増となったため、在庫予想は微減となった。

* 大豆……………前月に比べ、生産は増加、需要も増加し、在庫予想は増加となった。(前年比128%)

* 小麦……………前月に比べ、生産は微減、需要も微減となり、在庫予想は横ばいになった。(前年比79%)

* トウモロコシ…… 前月に比べ、生産は微減、需要も微減となったため、在庫予想は微減となった。(前年比96%)

<需 給>

生 産 1億1,923万トン
大 豆 需 要 1億1,706万トン
(9/1~8/31) 在庫率11.1% 期末在庫1,294万トン(前年比128%)

生 産 4,733万トン
小 麦 需 要 5,827万トン
(6/1~5/31) 在庫率 43.6% 期末在庫2,538万トン(前年比79%)

生 産 3億5,950万トン
トウモロコシ 需 要 3億6,324万トン
(9/1~8/31) 在庫率 15.9% 期末在庫5,774万トン(前年比96%)

■シカゴ相場 [ドル/ブッシェル]

■為替相場 [東京・銀行間直物中心、円/ドル]

	トウモロコシ	大豆	小麦	対ドル	円相場
12年	6.95	14.66	7.51	12年	82.89
13年	5.78	14.07	6.84	13年	100.16
15年	3.77	9.45	5.07	15年	120.13
2016年7月	3.43	10.63	4.19	7月	103.90
8月	3.23	10.08	4.07	8月	101.27
9月	3.29	9.69	3.91	9月	102.04
10月	3.49	9.75	4.09	10月	103.82
11月	3.45	10.03	4.03	11月	108.18
12月	3.50	10.21	3.97	12月	115.95
2017年1月	3.62	10.33	4.24	1月	114.73
3月10日	3.60	10.00	4.20	3月15日	114.85
4月13日	3.70	9.60	4.30	4月13日	109.05
5月5日	3.60	9.60	4.30	5月16日	113.80
6月5日	3.80	9.40	4.70	6月19日	110.85
7月14日	3.70	9.90	4.90	7月17日	112.55
8月18日	3.50	9.40	4.20	8月16日	110.65

■海上運賃[米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5~8万トン級)、ドル/トン]

【20年度93.37 21年度70.26 22年度61.23 23年度51.57 24年度45.75】
 27.1/21=33.00 2/18=30.51 3/2=32.00 3/16=32.12 4/22=33.04 5/28=31.20 7/7=34.51 8/6=36.52
 9/14=32.56 10/15=32.32 11/20=29.5 12/15=26.78 1/14=24.18 2/16=23.05 3/14=24.79 4/15=28.62
 5/23=28.73 6月平均=30.54 7月平均=33.26 8月平均=30.29 9月平均=29.92 10月平均=31.29 11月平均=33.03
 12月平均=35.8 1月平均=35.44 2月平均=36.51 3月平均=38.71 4月平均=40.51 5月平均=36.90
 6月平均=38.28 7月平均=39.78